

## メッセージアウトライン コリント人への手紙 第二4:1~6 「自分自身を宣べ伝えるのではなく」

[1]「こういうわけで、私たちは、あわれみを受けてこの務めに任じられているのですから、勇気を失うことなく、」

この「勇気」とは命知らずで向う見ずな行動をする勇気ではなく、信仰や福音に関する勇気、熱意や気力のことである。信仰者が信仰を持ってこの世の歩みを進めていく時、しばしば患難や困難、苦しみ悩みを受けることがある。→Ⅱテモテ3:12  
そのような時に失望落胆してしまうのではなく、勇気を出して前進することが大切。主イエスのことば→ヨハネ16:33

[2]「恥ずべき隠されたことを捨て、悪巧みに歩まず、神のことばを曲げず、真理を明らかにし、神の御前で自分自身をすべての人の良心に推薦しています」

「恥ずべき隠されたことを捨て」は陰険な恥ずべき行動で人をだましたり陥れたりしないこと。「悪巧みに歩まず」は悪い企み、計略をしないこと。「神のことばを曲げず」は勝手に神のことばを変えてしまわないこと。これらのことばはパウロに反対する一部のコリント人たちが彼を中傷して言っていたことばを反撃のため、そのまま用いていると思われる。パウロは神によって立てられた使徒であるので小細工など弄する必要などなく、大胆に真理を語り、そのことによって自分自身をすべての人々の良心に推薦しているのである。

[3-4]「それでもなお私たちの福音におおいが掛かっているとしたら、それは、滅びる人々の場合に、おおいが掛かっているのです。その場合、この世の神が不信者の思いをくらませて、神のかたちであるキリストの栄光にかかわる福音の光を輝かせないようにしているのです」

「この世の神」とはサタン、悪魔のこと。わかりやすく明確に福音が語られたのに、それを受けいられない人々の場合、それは福音自体に問題があるのではなく、サタンが人々の思いをくらませていることと関係がある。サタンはアダムとエバの時代からうそ偽りで人を誘惑し救いの道から遠ざけてきた。→創世記3章 主イエスは、地に落ちた四つの種のたとえ話の中で「御国のことばを聞いても悟らないと、悪い者が来て、その人の心に蒔かれたものを奪って行きます」と教えられた。→マタイ13:19 サタンは人々の思いに働きかけ、その心をこの世の関心で一杯にして、福音を聞いてもありえないこと、馬鹿らしいこと、悟れないこととしてしまう。しかし、私たちもかつてはそのような者であったが、神の豊かなあわれみと愛と恵のゆえに救いに入れられたことを忘れてはならない。→エペソ2:1-9

クリスチャンはどのように生きるべきか。→Ⅰペテロ5:8-9、エペソ6:11-18

[5]「私たちは自分自身を宣べ伝えるのではなく、主なるキリスト・イエスを宣べ伝えます。私たち自身は、イエスのために、あなたがたに仕えるしもべなのです」福音とは自分自身を宣べ伝えることではなく、私たちの救い主イエス・キリストを宣べ伝えることである。福音の伝道者はそれを宣べ伝えられる人々のしもべであつ

て決して支配したり尊大になったり君臨するものではない。(コリントの偽教師たちはそのようにしていたようである。→Ⅱコリント11:12~13, 20)

なぜしもべとして仕えるかといえば、福音を受け入れた人々がしっかりと信仰に立って、健全に成長していつてもらいたいからにほかならない。

[6]「『光が、やみの中から輝き出よ』と言われた神は、私たちの心を照らし、キリストの御顔にある神の栄光を知る知識を輝かせてくださったのです」

パウロは創世記1:3を引用し、神はやみの中から光を輝き出すことのできるお方であり、同様に神は私たちのかたくなな心のやみを照らして、キリストの御顔にある神の栄光を知る知識を輝かせてくださったと言う。これこそイエス・キリストによる救いであり福音なのである。

パウロはこの福音を宣べ伝えるという尊い務めに神によって任じられている。そして彼ばかりではなく、その伝えられた福音を聞き、心を照らされて信じ受け入れた私たちも、また同様に福音を宣べ伝える使命がゆだねられているのである。

→マタイ28:19~20、Ⅱテモテ4:2